

卒業するみなさんへ

副学長、学部長からの応援メッセージ

ご卒業（修了）おめでとうございます。3人の副学長と9人の学部長からいただいた応援メッセージを「寄せ書き」にしてお届けします。

最新の大学の情報は、ホームページやSNSを通じて積極的に発信していきますので、これからも母校を応援してください。教職員一同、皆さんの今後のご健闘とご健康を心よりお祈りいたします。



Setting Sail for a New Life

Michio Hayashi, Dean, Faculty of Liberal Arts

Dear Fellow Students,

My heartfelt congratulations to all our graduating students! The diploma you received is the culmination of your accomplishments during your years at Sophia. Your achievements are, however, not limited to the field of academics; your experience of studying at such a unique and culturally diversified program as the Faculty of Liberal Arts must also have helped you mature emotionally and socially. I can assure you that you are now well prepared to navigate through the uncharted sea of your future life. Not only that, I truly believe that people like you are the beacons of hope for the increasingly myopic and narrow-minded world. In closing, please do not forget that Sophia professors and staff members are still at Yotsuya to provide you with assistance whenever you need it. I wish you all the best for the new chapters of your life.



真にソフィアンらしい ソフィアンに

学生総務担当副学長 川中 仁

日本の高等教育は、現在、さまざまな課題に直面し、大きく揺れ動いています。上智大学は、全世界のイエズス会の教育機関で共有する「他者のために、他者とともに」という教育精神を掲げ、創立以来、他者性の涵養ということを人材養成の柱としてふれることなく追究し続けてきました。他者性とは、自分とは異なる他者に対して繊細な感受性と想像力を持ち、他者のために具体的に何かをするということです。それは何よりも人ということを大事にすることということができてほしい。上智で学び、上智で育てられた卒業生の皆さんの一人ひとりが、何よりも人ということを大事にする真にソフィアンらしいソフィアンとして社会で活躍されることを心から願っています。



自分と他者を共に信じて

学術交流担当副学長 杉村美紀

卒業生の皆さん、ご卒業本当におめでとうございます。皆さんは今、上智大学で過ごされた年月を振り返りながら、これから進んで行こうとする道についていろいろな夢や希望をもっておられることでしょうか。これからの道は自分の足と決断力で進んでいく道です。そこでは時に、皆さんが予想もしていないことが待ち受けているかもしれません。そのような時には母校、上智大学で学んだ日々を思い出していただきたい。先生方や先輩、友人の皆さんと共に過ごした大学の風景が、いつでもどこにいても、皆さんの背中をそっと押してくれるはず。同時に、皆さんを支え、活躍を応援してくれているご家族や様々な人々の思いにも気がつくことでしょうか。夢と勇気をもって、そして何より自分と他者を共に信じて進むこと。ソフィア・スピリッツの真髄です。



青春・朱夏・ 白秋・玄冬

学務担当副学長 藤村正之

青春は私たちにとってなじみ深い言葉ですが、青い春というその言葉、実は色と季節を組み合わせた中国の五行説に基づく言葉のひとつなのです。その後は、朱い夏、白い秋、玄い冬という言葉が続き、人生が4つの季節に例えられているわけです。大学を卒業されようとしている皆さん、もちろんこれからが仕事も遊びも青春本番だと思えますが、人生の区切りとしては小学校以来の長い生徒・学生時代を終え、いよいよ社会の中心メンバーとなるべく、人生の第2の時期に入っていきいってよいでしょう。私が大学を卒業したその昔、ある先生がこんなことを言っていました。「君たちの未来は〈前途洋々〉だ。その意味はだな、何が何だかわからないってことだ。」朱い夏に向けて、〈前途洋々〉とごきげす皆さんの船出に期待しています。どうぞお元気で。



卒業生へ送るメッセージ

文学部長 大塚寿郎

大学で学んだ月日というのは、これから皆さんが積み重ねていく人生の年月から見れば、ほんの一時にすぎません。ある人にとっては忘れられない思い出として残り、別の人には過ぎ去った時間として、やがて記憶から消えていってしまうものかもしれません。ここで過ごした時間がどんな意味をもつのかは、今すぐにはわかりません。得たものを思ったとおりに活かせればよし。そうでなくとも、ずっと先になって、ふり返ってみて、「こんなふうにつながっていたのか」と気付くこともあるでしょう。まちがいがなく言えることは、形はどうであれ、上智で過ごした時間は、将来の可能性につながっているということです。

だから今、旅立っていくみなさんと喜びと希望を分かち合い、卒業をお祝いしたいと思います。おめでとうございます。



卒業生のみなさんへ

神学部長 光延一郎

「詩人は日毎に地下の聖堂に祈り、樹の梢を歌う琴に変える」と片山敏彦という文学者は言いました。心の奥底にしばし降りて行き、そこで思索することから、成長する「私」と世界が美しい音楽を奏できるよう努力すること、それは私たち「ソフィアン」の課題でもあるかと思えます。私たちの内に与えられている若草のような希望、前途のさまざまな領域が和音を奏でながら一致統合していく歩みへの自覚が、みなさんの羽ばたきの中で輝きますように。生きることの謎に日々とくむみなさんが、梢に吹く風の音をききとりながら、その葉を繁らせ、つながりあって、大きな文化の木へと育ちますように。混迷する世界に涙しつつも、希望の葉をかみしめ、湧き出る善意から感謝と喜びのほめ歌を歌い続けることができますように。お祈りしています。



新たなるステージ での挑戦に向けて

法学部長 矢島基美

ご卒業、おめでとうございます。心から祝福いたします。

いよいよ大学生としての生活を終え、新たなるステージにおける挑戦がそれぞれに始まります。そのステージは、いくらかの達成感と少なからぬ労苦とで織りなされる、皆さんにとって経験したことのないような日々の連なりとなりましょう。それだけに、たえず前を向き、ひたむきに職務に打ち込み、たとえささやかであれ、創意工夫に心がけ、みずからを信じつつ、みずからを客観視するなかで奮励していっただければと思います。

それでも、悩み惑うときが訪れるかもしれません。その折には、どうか上智大学でのことを思い起こしてください。そこで得られたものが何であれ、必ずそれは皆さんを支えてくれるに違いありません。上智大学は、皆さんにとって確かなる原点のひとつであり続けるのですから。



一歩ずつ 前へ

理工学部長 築地徹浩

ご卒業おめでとうございます。心からお祝いを申し上げます。上智大学での学生生活も終わり、4月からそれぞれの道へ進まれることと思います。上智大学での学生生活はいかがだったでしょうか。きっと皆さんは楽しい思い出をもって卒業されると思います。これからは、初めて出会う多くの困難が待ち受けていると思います。大切なことは、常に自ら考え、自分で開き作った道を前へ進むことです。上智大学で培い学んだ多くのことを糧として、皆さんのそれぞれの道を前へ歩んで下さい。そして、無理をしないで自分のペースで一歩ずつ進んで下さい。これから皆さんが自分自ら考えたそれぞれの道を前へ歩んで行かれ、ご活躍されることをお祈りいたします。



今、巣立っていく君へⅣ

総合人間科学部長 久田 満

お世辞にも出来の良い学生だったとは言えないけど、何に対してもひたむきなところが君の最大の魅力かな。さすがにバイトにひたむきになり過ぎて留年しそうになった時は心配したけど。冒険心も旺盛で、一人で東南アジアを旅してきたと言って化粧つきの笑顔を見せに来てくれた時は驚いたのと安心したのとで、すぐに言葉が出てこなかったよ。卒業生にはこの時期いつも「立派な〇〇になってね」と送り出すのだけれど、君にだけは、あえて何者にもならないでほしいと言いたい。性別、人種、国籍、職名、肩書、規範、常識なんてものには縛られない一人の「人間」として、この社会をより良い方法に変えていってほしい。卒業おめでとう！
*今回でこの連載は終了です。これまで読んでくださった方々に厚く御礼申し上げます。



上智という器、 叡知という中味

総合グローバル学部長 赤堀雅幸

ご卒業に心からお祝いします。学生生活から得た何か、あなたの未来にとって意味をなしますように。

上智大学を卒業した皆さんに会社や社会が寄せる期待は小さくありません。しかし、皆さんにとって大切なのは、「上智（ソフィア）」という過去の器ではありません。本当に大切なのは、建学以来、あなたも含めて、皆がこの器に盛ろうとしてきた「叡知（ソフィア）」という中味です。どうか、激動する現代社会で、賢く立ち回る方法を追うのではなく、自他を活かす姿勢と、それに必要な知識と技能を養ってください。

ソフィアンとは、生涯にわたって叡知を求め続ける者を指すのだと、私は思います。皆さんはそのための長い道のりの1歩目を踏み出したばかりです。その道のりの、たとえ険しくとも彩りに満ちて実り多いものであることを祈ります。



BBAB

外国語学部長 谷 洋之

妙な表題ですが、今流行の動画、ではなく、成績の話です。卒業のお祝いにまで成績の話とは野暮の極みと思われそうですが、しばらくお付き合いください。

GPAというBBABは3.25になります。いい成績ですが満点ではありません。このピコ太郎くん、実力が0.75足りないのではありませんか。

ここで問題とすべきは、どの成績も「分母が100」ということです。150とか200とかは付けたくても付けられません。ピコ太郎くん唯一のAが「Aを超えるA」だとしたら、GPAは実力をうまく表現できていない、そう思ってしまう。

思えば皆さんが卒業後に活躍していくのは、むしろこうした「分母が青天井の世界」。そこで活躍は、敢えて大仰な言い方をすれば「人間の伸び代を拡げる」と同義でしょう。皆さんのそうした活躍への期待を込めて申し上げます。「卒業おめでとう！」



意志あるところに道あり

経済学部長 山田幸三

ご卒業おめでとうございます。卒業の日、社会へ旅立つ新しいスタートの日です。日本経済は高度知識基盤型へと変貌し、グローバルな視点からの思考と行動によって社会の諸問題を解決し、成果を手にすることのできる社会の構築が求められています。同時に、阪神・淡路大震災と東日本大震災という歴史的災禍に見舞われた日本社会では、地域社会の活性化も主要な課題となっています。

上智大学で学んだことを活かして人々と協力し、日本社会の制度や仕組みを新たな方向性で再構築することで経済的、社会的な価値を生み出して、より良き人生の行路を歩んでください。アメリカ合衆国第16代大統領エイブラハム・リンカーンの言うように、”Where there is a will, there is a way” なのです。今後のご活躍をお祈りします。

